

インドネシアの伝統的薬草療法ジャムウがもたらす健康効果の調査

アジア・アフリカ地域研究研究科 博士課程（5年一貫制） 1年

杉野 好美

インドネシア

2018年11月6日～2019年2月17日

計画の概要

近年インドネシアは、急速な経済発展と生活様式の変化に伴い、生活習慣病や高齢化による慢性疾患が増加している。これらの疾患は、西洋医学だけで即座に根治するものではないため、日本では生活習慣の改善や、痛みを緩和する補完・代替療法（マッサージ・薬草・リラクゼーション等）を導入する医療機関もある。一方、インドネシアでは伝統的な補完・代替療法として薬草療法ジャムウがある。そこで、本研究ではジャムウが健康問題の緩和に果たす役割を明らかにすることを目的とし、特に(1)日常的な健康増進、(2)疾病予防、(3)女性のライフイベントサポートに着目する。

研究方法は、まず先行文献からジャムウについての体系的な理解を行う。続いて、実践者や使用者の聞き取り調査から、利用資源(植物)、利用方法、期待される効能・効果を明らかにする。将来的には、ジャムウの効果的利用の提言を目指す。

成果

今回は初回調査であり、まずは研究がスムーズに実施できるよう調査ビザの取得や倫理委員会による承認など、関係機関で適切な手続きを行い、国・州・県・村の関係当局者に研究の趣旨を伝えた。調査対象や調査地を定め、調査対象者に研究の趣旨を伝え、関係づくりに努めた。

続いて1人のジャムウ実践者（数種類のジャムウドリンクを作り、販売している行商婦人）とその家族の参与観察を3週間行い、材料の仕入れ・ジャムウドリンク作り・販売・家事・近所付き合いなど実践者の生活を把握することができた。また、実践者に数回にわたり聞き取りを行い、ライフヒストリー・販売の動機・ジャムウドリンクに対する思い・ジャムウドリンク作りのこだわりなどの情報を収集した。

さらに約1カ月間、実践者のジャムウドリンクの販売に同行し、その顧客全員の名前・年齢・性別・ジャムウドリンクの種類を聞きとった。この際にはGPSによる販売経路の把握、各顧客の住まいなどのマッピングを行った。これらの調査を通じて、どのような顧

客（性別・年代・頻度）が、どのような種類のジャムウドリンクを飲んでいるかについて、詳細に知ることができた。また、実践者の販売に同行することにより、調査者と顧客の人間関係も少しずつ構築することができた。

顧客に質問票調査を行うために、インドネシア人であるカウンターパートの先生にも助言をいただきながら、質問票を作成した。プレ調査を行った後、この質問票を用いて、実践者の顧客（18歳以上）かつ、調査に同意してくれた44人を対象に構造的な聞き取り調査を実施した。質問票の内容は、基本的な質問項目に加え、ジャムウドリンクに関する詳細な質問・健康状態に関するものを含む。この調査により、顧客1人1人のジャムウドリンクに対する考え・利用目的・健康に関する考えなど、直接話を聞きながら明らかにすることができた。

今回のフィールド調査で、ジャムウドリンクを提供し、それを日常的に飲んでいる人達の生の声を聞くことで、この地域でジャムウ実践者が作るジャムウドリンクを必要としている人達がいるということを実感した。ジャムウドリンクは、健康増進・疾病予防・女性のライフイベントサポートなど、様々な目的で使用されていることがわかった。

今後、初回調査で集めた情報やデータを分析することで、ジャムウ行商婦人とその顧客の実態についてより詳細に明らかにする。そして次回調査に向けて、さらなる研究計画を立てていく。



ジャムウ実践者と顧客、販売



顧客と調査者、インタビュー